



若手育成について

豊橋研究支援課 山口 恵里子

オープン・リサーチ・センターの目的のひとつに、若手研究者を積極的に各研究領域に参加させて共同研究を含めた中での人材育成を図ることが構想調書に掲げてある。その方法として、各プロジェクトにP.DやR.Aの若手を参加させて共同体制をとり、文献だけでない実践的な研究のあり方を学んでいる。

写真パネル展や日本各地のみならずシカゴでの本学が保存している歴史的史資料の展示会の開

催。国際シンポジウムや講演会・研究会の開催。また記念館の整備にも大きく係わり、特に大学史展示室の改装や本間展示室の設置。英語・中国語も含めた記念センター各種パンフレットの作成や記念センターをより解りやすく紹介したDVD・音声ガイド・タッチパネルの作製など、さまざまな共同製作に加わってきた。こうしたプロジェクトに自由に参加し、老若男女が切磋琢磨し、オープン・リサーチ・センターの成果となっている。



「若手研究者育成会」の一区切りにあたって

大学史事務室 佃 隆一郎

本2009年1月より、東亜同文書院大学記念センターの越知研究員が代表になって立ち上げられてきた「若手研究者育成会」は、7月28日（火）の昼食懇談会をもって一区切りをつけることになったが、その間わずかな時間・期間でありながらもいただいた機会を、私を含めた各「若手研究者」がどれだけ活用できるかは、今後の行動にかかっている。

それより1か月ほど前の7月2日（木）午後、豊橋市今橋町の豊橋美術博物館にて開催された「開館30周年記念展ターナーから印象派へー光の中の情景」の開場式および内覧会に、武井ポスト・ドクターとともに参加する機会があった。そこで私が感心したこととしては、進行が滞りなくかつ手際よく行われたことあり、外部各所とのタ

イアップが（むしろそれだからこそ）準備と打ち合わせが入念にされたことがうかがえ、また開館30年という節目にあたっての、豊橋美術博物館の意気込みも感じられた。

この時の見学は、同館から越知研究員への招待がきっかけであって、同研究員の別件での出張による“代理”参加という形になったが（越知研究員が副館長の方に電話で連絡の上、紹介状として名刺を下さった）、私たちにとって開場式や内覧会を見学する機会が初めてであって、今後記念センターで同様の行事を開くために、今回の経験は生かしていかなければならないと考えている。

3年前のオープン・リサーチ・センター立ち上げの頃より、私たちに常に叱咤激励を下さっている越知研究員へは改めて感謝の意を表します。